

# 我が班の安全活動

## (グラップルソーを取り入れて)

付知営林署 付知製品事業所 基幹作業職員 片田 源 十

### 1 はじめに

健康で災害の無い明るい職場づくりは、私たち働く者全員の願いである。私たちの働く環境は、急峻で、チマキザサが密生しており、「木曾ヒノキ」や「天サワラ」等の天然林が主体であり、安全確保には特に配慮しているところである。

このような中、平成6年度からグラップルソーが導入されたことに伴い、作業仕組の改善と新たな安全対策を行う必要性が生じた。



### 2 取り組み状況

我が班の安全目標は

グラップルソーでの玉切作業

- ① 基本動作に徹し、安全で災害のない明るい職場作りに努めよう。
- ② 指差確認を確実に実行して、間を持った作業をしよう。
- ③ 重機との連携を図り、災害を防止しよう。
- ④ 決めたこと、決められたことは必ず守ろう。

以上の4点を柱に取り組んでいるが、特にグラップルソーの導入に伴う安全対策として

#### (1) 集材機運転手との連携

グラップルソーが導入されたことにより、集材機運転手との連携が重要視される。集材機運転手は、盤台上でグラップルソーによる造材が終了したことを必ず確認して、次の材を搬入するようにしている。

#### (2) 線下作業の排除

今までは線下作業を排除するために、キックフック方式か巻き上げ機械等による方法を取ってきたが、グラップルソーで材を荷卸し地点から造材箇所へスムーズに移動させることにより、線下作業を排除し、安全に作業ができるようにしている。

#### (3) 安全で効率的な作業

現地は傾斜が強く、材を盤台に集積することは困難であったため、近くの広場に集積盤台を作設し、造材した材をグラップルソーで運搬することで、造材する場所に材が貯まることがな

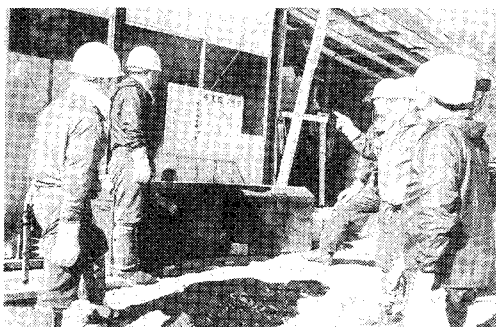
く、より安全で効率的な作業ができるようにしている。

#### (4) グラップルソー運転手の死角の解消

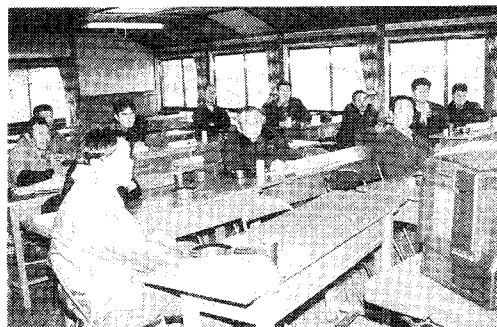
グラップルソーの周りは運転手の死角になる箇所が多いため、特に危険であり一歩誤ると重大災害につながる恐れがある。そのため、運転手は周囲の状況及び作業者の位置を常に確認・把握しておくことが重要である。また、作業者も危険な箇所への立ち入りはむやみに行わない等、運転手と周りの作業者が連携を図りながら作業を行っている。

#### (5) その他の安全活動

昨年の7月に王滝署と合同で交流会を開催し、他署の安全活動の取組みについて学び、意見交換を行う等アクセントをつけた安全活動を実施している。また、安全懇談会の中でビデオを活用して、安全について自分たちで考え実行している。



ミーティング風景



ビデオを活用した安全懇談会

### 3 今後の課題

- (1) 現在のグラップルソー (BM70-S25型) では、直径70cmまでの材を造材することができるが、天然林の大径材になると車体不安定になりやすいため、もう一回り大型の機械が必要である。
- (2) グラップルソーの運転も馴れてくると、馴れからくる災害がおこりやすいため、運転に馴れても常に安全運転を心がけるとともに、作業能率を高めるよう運転技能の向上を図る必要がある。
- (3) これからグラップルソー等の高性能林業機械の導入を考えると、機械が十分に威力を発揮できるような作業スペースが必要である。

### 4 まとめ

- (1) グラップルソーを取り入れたことにより、労働安全の確保や労働強度の軽減及び作業の効率化が図られた。
- (2) グラップルソー導入のための安全対策を行うことで、安全意識も高まり、お互いに相談する

ことや注意し合うことが当然という雰囲気が出てきた。

- (3) 私たちの安全活動は特に目新しいことを実施しているのではなく、作業の安全や心身の健康を確保するための基本を守る、つまり、「決めたこと、決められたことを必ず守る」ことにより災害は防止できると確信した。